

新産業創出等研究開発協議会
第2回広域連携ワーキンググループ 議事要旨

1 日時

令和6年7月2日（火） 14:00～15:45

2 場所

広野町公民館 大会議室
(福島県双葉郡広野町中央台1丁目1)

3 議事

- (1) 福島国際研究教育機構の研究開発の進捗状況等について（報告）
- (2) 福島国際研究教育機構の産業化、人材育成等の取組について（報告）
- (3) 市町村座談会等について（報告）
- (4) 市町村等の広域連携等に関する取組について（意見交換）

4 主な発言内容

議事(1)及び(2)についてF-REIより、議事(3)について復興庁及びF-REIより報告を行った。また、議事(4)について、構成員から以下のとおり発言があった（発言順）。

【福島県】

- 来年4月の福島ロボットテストフィールド（以下「RTF」という。）のF-REIへの統合に向け、6月14日に福島県とF-REIで統合基本合意書を締結した。統合は、福島県がF-REIへ現物出資し、これまでのRTFの機能や成果を継承しながら、F-REIの研究開発の機能が加わることでRTFのさらなる発展を目指す。施設に入居する企業や研究機関とF-REIとの相乗効果で成果を最大化できるように県としても連携していきたい。
- RTF 統合基本合意書締結に併せて、F-REI、イノベ機構、県の三者で包括連携協定を締結した。協定に基づき三者が密接に連携しながら、F-REIと地域との連携促進や福島イノベーションコースト構想のさらなるシンカにつなげていく。
- 福島県では、令和6年度のF-REI関連事業予算として、57百万円を計上している。F-REI広域連携の推進については、イノベ機構にF-REIと地域をつなぐコーディネーターを配置しているので、ぜひご相談いただきたい。F-REI研究者等の生活環境の充実については、昨年度、教育、商業、医療等の分野について広域的な視点で課題把握を行った。今年度は、昨年度の課題把握を踏まえ、分析や必要なアクションの調査研究を行う予定であり、関係市町村にもご協力をお願いしたい。

- 新技術実装連携絆特区について、6月4日の国家戦略特区諮問会議で福島県が長崎県とともに指定されることが決まり、6月26日の政令の公布施行で指定された。この特区は、地理的に離れた複数自治体が連携して共通の地域課題解決に取り組むための戦略特区である。

本特区では、買い物困難等の共通地域課題を福島県と長崎県と連携して両地域のポテンシャルを生かしながら、利便性の高いドローン配送を全国に先駆けて実現し、早期実装を図る。今回の特区指定でイノベーションコースト構想のさらなる進展を期待している。

【いわき市】

- F-REI のロードマップを踏まえ、当市の当面のロードマップを作成し、現在は支援提案期間という形で活動している。地元企業 100 社をリストアップした企業ガイドブックを作成し、地元企業の関連分野や技術の洗い出しを行った。その結果、F-REI の研究開発公募に、市内の高等教育機関や企業を合わせて5者が参画することができた。当市としても、委託研究が円滑かつ着実に進むよう、引き続きサポートしていきたい。この他に、委託研究について必要となる資機材の調達や実証フィールドの提供等についても積極的に支援していきたい。
- 人材育成については、F-REI との連携を見据えた人材育成の地域連携プラットフォームの立ち上げを検討している。高等教育機関や産業界と意見交換を行いながらどのようなプログラムが提供できるか意見交換を行っている。
- 8月に首都圏で活躍している本市出身の方々と地元関係団体との交流会があり、F-REI にブース出展を提案している。今後もこうした産業界とのネットワーク作りやF-REI 認知度向上の場を提案していきたい。

【田村市】

- 当市では、「東大10人構想」を掲げ、東大のような大学を受ける子供を早いうちから育てる取組を行っている。こうした取組において、今後、子供たちがF-REI の技術や研究開発に触れる機会が設けられることを期待する。
- 当市は農林業が盛んであるが、担い手不足の問題があり、ロボットやAI を活用した農業のスマート化で担い手不足を解消したいと考えている。実証フィールドとして是非中通りも活用して欲しい。

【南相馬市】

- 地域産業の人手不足等の課題を解決するため、地域で自動化・省力化・効率化を推進する「市産業効率化地域プラットフォーム」を構築し、国や県との円滑な連携

等に寄与することを目的として「市産業効率化地域プラットフォーム推進協議会」を設立した。

- 企業等が自動化や省力化に取り組む際、システムインテグレーター等が必要となるが、地域にいない場合もあることから、経済産業省が進めている「ロボット先進地域ネットワーク」に参画し、全国の他の地域のその分野の強みを持つ業者との連携など、他の地域と連携して人手不足や技術力向上に取り組んでいる。
- 当市では、国際バカロレア教育の導入について研究会を設置して検討している。その結果、高い効果が期待できると判断し、現在、公立の小学校への導入に向けた取組を進めている。
- 当市では、子育てを地域全体で応援する機運の醸成のため、「こども未来フェスティバル」の開催を11月に予定している。フェスティバルでは、子供たちの科学やイノベ構想に対する興味関心を高める、復興知に取り組んでいる大学に協力いただき、体験型ブースを設けることを予定している。

【広野町】

- 当町では、東大アイソトープセンターと協定を締結し、放射線を使った治療薬の研究支援を行ってきた。ガン治療の研究にアクチニウム 225 を使用しているが、この物質は非常に高価であり、アメリカやドイツからの輸入に頼っている状況である。この物質は、石炭灰に多く含まれるラジウム 226 により合成されると聞いている。当町には、火力発電所と IGCC があるが、国際的に二酸化炭素排出削減が叫ばれるなか、燃料の石炭削減と燃焼灰の処分が課題となっている。灰の一部は、建設資材に再利用されているが、ほとんどが埋め立て処分であり、埋め立て場所の選定に苦慮している。そこで、石炭灰からラジウム 226 の抽出分離濃縮する行程を事業化できれば、地域課題の解決や地域の経済に資する取組になると考えているため、F-REI には、助言、支援等をお願いしたい。

【大熊町】

- 当町は、2022 年 6 月末の避難指示解除から約 2 年経過したところであり、まだ取り組みについては限られているものの、「大熊インキュベーションセンター」を設立し、町として企業やスタートアップの支援を行っている。大熊インキュベーションセンター入居企業の 1 社が、F-REI/¥ の委託研究の受託者の一員となっている。今後も、ベンチャー企業やスタートアップ企業等の支援を行い、町内企業と F-REI の連携を促進していきたい。
- 令和 5 年度に幼小中一貫した教育を行う「学び舎ゆめの森」を開所した。F-REI

には、町の義務教育学校との連携も図っていただき、それを通じて、地域の子供たちの選択肢の1つとしてF-REIが挙げられるようになればよいと考えている。

- 今後、多くの研究者もこの地域を訪れることが想定されるため、町としてもこの地域で楽しく生活していただけるような環境整備を考えている。JR大野駅西側に整備している産業交流施設に入居企業とF-REIとの連携や、新たにできる商業施設をF-REIの研究者にも利用いただけることを期待している。

【双葉町】

- 当町では、昨年度に学校検討の委員会を設置し、町民アンケートやワークショップを実施しながら基本構想を取りまとめたところ。本構想は、F-REIの立地により町民の他、様々な方々が来られることを想定し、地域に開かれた施設としていく方針としている。先月に今年度第1回目の検討委員会を開催して具体化を始めているところ。今後は、施設のレイアウトやこういった機能を設けるか等について検討を進めていく。

【浪江町】

- F-REIの研究者等、外国の方が安心して生活できるよう、令和5年度に訪日外国人へのおもてなしガイドブックを作成した。英語になじみのない方でも使ってもらえるようなわかりやすい内容にしている。本ガイドブックは当町のHPで公開しているので、ぜひ参考にさせていただきたい。
- 常磐線の特急増便やF-REIの将来の需要を見越して、F-REIと市町村が連携して関係機関に要望活動を行うといった広域連携の取組もあるのではないかと考える。

【飯舘村】

- 当村では、6月30日にバイオマス発電所である「飯舘みらい発電所」の完成竣工式を迎え、7月中旬から本格稼働という運びとなっている。村ではF-REIの委託研究である「施設園芸における再生可能エネルギーを活用した循環システムの構築と実証」において、産総研が実施する「飯舘みらい発電所からの排ガスを利用した地域循環型熱及び二酸化炭素利用に関する研究」と連携して、化石由来炭素を削減した未来志向型農業体系の構築を目指すこととしている。

研究内容は、飯舘みらい発電所の排ガスから農業用ハウス栽培に必要な熱と二酸化炭素を吸着剤で回収し、各農業用ハウスに運搬利用する農業用地域循環型熱・二酸化炭素共有システムを開発するもの。安全な物をトラックで運搬し、ハウスでそれを発熱させて利用するという形で取り組んでいこうと考えている。

【イノベ機構】

- 6月14日にF-REIと福島県でRTF統合に関する基本合意書を結んだ。今後5年間は当機構がRTFの運営を担うことになる。これまでの機能と成果を継承するとともにF-REIの研究機能を活かしてさらにRTFの機能強化や産業化の役割を強めていきたい。

- 昨年の11月のイノベ分科会において、イノベ機構はイノベ構想の中核的な推進機関、F-REIは創造的復興拠点を目指す地域の研究機関の司令塔という整理がなされたところ。イノベ構想は大きな構想であり、我々はF-REIとの役割の分担のもとに復興を進めていく。

- F-REIとの連携のため、昨年度からコーディネーターを設置している。昨年度は、地元企業、研究機関、大学等がF-REIのどんな研究に応募できるかについての相談に力を注いだところである。今年度は、具体的に研究者の話を聞きながら地元の企業がどのように連携できるのかという点に重点を置いて活動していくので、積極的にご相談いただきたい。

- 人材育成の取組について、F-REIでは「トップセミナー」を実施しているが、当機構は「ふくしまイノベ未来講座」を実施している。今年度は、講師にF-REIの研究者をご紹介いただき、出前授業をしているところである。

- 「福島スタートアップツアー」では、F-REIの認知度向上のため、F-REIへの訪問も計画している。当機構では、県内で様々なイベントを実施しており、これまでにF-REIにも出展いただいて一緒にF-REIの役割等を紹介してきたところ。6月14日にF-REI、福島県、当機構の三者で包括連携協定を締結しており、今後も引き続きその役割を果たしていきたい。